

<GTEC>通信

アウトプットを意識した指導により、 4技能を総合的に伸ばす

長崎県立西陵高等学校

1986（昭和61）年創立の進学重視型単位制・2学期制の普通科高校。「自律・進取・友愛」の三綱と「ゆたかに（徳）・さとく（智）・すこやかに（体）」の三領を校訓とする。全員部活制で、1年次の部活動加入率は100%。真の文武両道を目指しており、運動部も文化部も全国大会等において好成績を残している。卒業後は、ほとんどの生徒が、国公立大学をはじめとする4年制大学に進学している。

基本情報：公立、共学、普通科

規模：1学年約240名

主な進路状況：国公立大は、長崎大、熊本大、大分大、山口大、広島大、長崎県立大をはじめ92名が合格（2019年度入試、現浪計）



取り組みのポイント

- 2018年度1学年より「GTEC」を使った4技能の向上をめざし指導改善に着手。
- 特にアウトプットを重視し、コミュニケーション英語では毎時ライティングやスピーキングを行った。
- CAN-DOリストの数値目標を精緻化、共有することで指導の平準化と底上げを図った。

取り組みの背景

長崎県立西陵高等学校では、2018年度1学年から英語4技能を総合的に伸ばす授業への転換を図った。背景には2021年度入試への対応と、同年に始まった長崎県教育委員会の「英語で発信できるグローバルパイオニア育成事業」がある。同事業は、英語の民間検定試験「GTEC」の受検と学習状況などを回答する質問紙調査を県立高校生に実施し、生徒の英語力を客観的に分析し、教師の指導力および生徒の英語力の充実を図ることを目的としている。同校においても、従来やや手薄だった発話の時間を増やすなど、4技能の向上を意識

した授業構成にした。2018年6月に受検した第1回目の「GTEC」と質問紙調査をクロス分析した結果、この学年の特徴も明らかになった。英語力はリーディングとリスニングが県全体のレベルに比べて低く、将来英語を使って何かをしたい、英語を習得して海外に出たいという意識も、県の平均に比べて低かった。

この結果を受けて、生徒の英語力と英語に対する意識を高めるべく、2年間の英語指導の強化が始動。取組内容等も丁寧に定義した（資料1）。

即興的に英語を使う力を育むべく、「話す」活動を中心に工夫

「コミュニケーション英語」の授業は週4コマで、1パート約1.5時間で構成されている。また、発話活動のしやすさを考え、1年次の教科書は難易度の低いものを新たに採用した。以下、授業の流れを見ていく。

①授業前の単語クイックレスポンス

授業前、教師が教室に入る前に係の生徒が単語の音声CDを流し、クイックレスポンスに取り組む。読解力向上のための単語力の向上を図るほか、授業前に発声しておくことで、発話がしやすい雰囲気と意識をつくるのがねらいである。

②単語テスト

教師が教室に入り単語テストを実施。生徒に配布している単語帳の1ユニットを出題範囲として、週4回の授業のうち3回、15題の小テストを行った。3回のテストの正解率が8割未満の生徒は週内に再テストを行う。約2か月で単語帳1冊を1巡し、12月までに4回を繰り返した。3学期に再び後半のユニットだけ取り組み、年度末にまとめとして全範囲から100題のテストを実施した。平均点は77.1点だったが、基礎的な語彙力の底上げにつながった。

③本文全体のリーディング

レッスンの最初の授業のみ、最初に本文全体のリーディングを行い大まかな意味を把握させる。ただ黙読するのではなく、キーセンテンスやトピックを探しながら読ませたり、内容にかかわるキーワードを与え、それがどのパートで述べられているのかを考えさせたりするなど、内容理解を促す活動を入れながら読ませる。英語が苦手なクラスでは、ペアで話し合わせながらリーディングを行う場合もある。

④1分間のスマールトーク

続いて、ペアワークで英語の会話を1分間続けるスマールトークを行う。内容は、教科書の写真やイラストに何が書かれているかを話すPicture Descriptionや、パートに出てくる単語をその単語を使わずに説明する、前回のパートで学んだ文法事項を使って昨日の夜に行ったことを相手に説明するなど、本文の内容にかかわるテーマや既習事項について会話を行う。冒頭のクイックレスポンス同様、授業で発話しやすい雰囲気を作るためのウォーミングアップの役割もある。

生徒はあらかじめテーマを知らされていないので、その場で即興的に会話を組み立てなければならず、英語科の雪野慶子先生は語る。

「授業では単に知識を習得させるだけではなく、即興的に英語を使える力の育成を意識しています。1年次の途中まではスムーズにいかないペアも少なくありませんでしたが、慣れてくると意欲的にペアワークに取り組むようになります」

⑤Q&Aワークシートを用いたペアワーク

本文の内容について異なる質問が印刷されたAとBの2枚のQ&Aワークシート（資料2）を、ペアの生徒に1枚ずつ配布。それぞれ筆記で回答したうえで、Aの生徒がBの生徒に、自分のシートに記載されている質問を相手に投げる。Bの生徒はその場で即興的に答え、Aの生徒と回答を共有する。同様にBは自分の質問をAに投げ回答を共有。ここでも即興性を育てるために、Q&Aワークシートの内容はあらかじめ生徒に知らせていない。

その後、予習として課している宿題の授業プリントを確認する。説明文に合致する単語を記入させる語定義、True or False、サマリーの穴埋めにより本文の内容理解を深める（資料3）。①～⑤で1パート1.5時間のうち1コマが終了する。

⑥音読活動

以上の内容把握を行った上で、音読シート（資料4）を使って音読活動に取り組む。

音読シートの裏面には、右に日本語、左に英語の語句を並べた「Sight Translation」、教科書の重要語句を抜き出した「Quick Response」がある（資料5）。本文を読む前に、裏面を使ってペアワークを行い、内容理解を深めた上で表面の音読シートに取り組む。音読シートは教科書そのままの「Original」、括弧で単語を抜いた「Standard」（標準）と「Intermediate」（中級）、確実に覚えさせたい重要語句を抜いて日本語を当てはめた「Reading with Japanese Phrases」（発展）の4パートで構成。オリジナルを音読した後、括弧抜き標準または中級を生徒自身で選び、最後に日本語を英語に直しながらの音読というように、段階を追ってレベルを上げていく。

⑦パートごとのリテリング

パートの理解を深めた上で、パートの要点をペアやグループで伝え合うリテリングを90～120秒で行う。暗記した本文をそのまま話そうとして、120秒で足りなくなる生徒も多い。時間内に収まるように、いかに自分の言葉で発話できるかがポイントになる。

リテリングでは、生徒自身が本文の要点をイメージして描いたイラスト（1コマ目終了後に宿題として課す）をもとにプレゼンテーションを行う（資料6）。最初はペアで1人が発表をし、もう1人が聞き手となる。聞き手は、発表が制限

時間よりも短い場合はイラストについて質問を行い、発表者が英語を話し続けるための援助者にもなる。次にペアを変えたり、4人グループにしたりと形を変え、発表回数を重ねることで、生徒は自信を持って伝えることができるようになる。

「イラストを元にリテリングを行う活動が、1年間の授業の中でもっとも自分が成長できたと、アンケートに書く生徒は少なくありません。言葉で理解した内容を自分でイメージ化しリテリングすることが、思考力や英語力を伸ばすことにつながることを実感しているのではないのでしょうか。また、各レッスンの最後には全パートのイラストを使って、3～4分間で本文の内容に、自分で調べた新しい情報を加えたプレゼンテーションを行っています」（雪野先生）

WPMなどの数値目標を設定し、 学校全体で指導改善を推進

県の事業が始まってCAN-DOリストの精緻化も進んだ（資料7）。従来同校で使用していたCAN-DOリストでは、同校の実状に合わない部分も多かったという。この学年から、英語4技能を総合的に伸ばす観点から、「GTEC」の結果を参考に、生徒の英語力に合わせたリストに修正した。

最も大きな変化は、学年ごとの目標値を明確にしたことだ。例えば、スピーキングの「発表」では、1年次前期は30語、後期は40語、リーディングでは1年次前期はWPM70、後期はWPM80など、

「GTEC」の結果をもとに、学年ごとの数値目標を定めた。

雪野先生は、客観的な指標に基づいた適切な目標設定をすることの意義を次のように語る。

「教師によって指導の方法や教材が異なることはありますが、CAN-DOリストで育てたい力を共有することにより、同じ目線で指導にあたれたことが4技能の向上につながりました」（雪野先生）

4技能を総合的に伸ばす指導改善により、生徒の英語力は1年間で飛躍的に向上した。特に「GTEC」の伸びが大きかったのがリーディングとリスニングである。1年次→2年次のリーディングのスコアの伸び（資料8）は36.1、伸び率は27%。CEFRレベル別度数分布（資料9）は、1年次にA1が全体の約70%、B1は0.8%に過ぎなかったが、2年次はA1が約33%まで減り、A2が約53%に、B1が約15%に増加した。同じくリスニングのスコアの伸びは29.6、伸び率は21%。度数分布も1年次はA1が約74%、B1は2.6%だったが、2年次はA2が約51%、B1が約10%となった。4技能全体でも、スコアの伸びは109、伸び率は17%となり、A1は66.5%から28.7%へ半減、A2が33.1%から67.4%へ倍増した。

総じて、英語が苦手だった中下位層の生徒のスコアが大きく伸びる結果となっている。

「中学時代にあまり手をかけられてこなかった生徒たちが、4技能をバランスよく取り組むことで自信を持てるようになった結果でしょう。この学年は、進研模試においても例年以上の成績を上げており、4技能の向上が入試学力にも有効であることを証明していると考えています」（雪野先生）

県の事業が始まったことで、同校の生徒の実態をより正確に把握できるようになったことも大きな成果である。「GTEC」のスコアの推移だけではなく、県全体との比較や全国との比較などが容易になった。「GTEC」とあわせて行われた質問紙調査により、教師・生徒とも英語での発話の割合が県内の他校より高いことも分かった。

今後の課題は成績上位層の生徒の引き上げである。4技能全体のCEFR度数でも、B1は1年間で0.4%→3.9%まで伸びたが、成績中下位層の生徒の躍進に比べると目立って増えていない。入試への対応力をつけながらB1を増やすことが3年次に向けての目標となる。

【資料1】「GTEC」結果分析と今後の授業等での取組

2 GTEC結果の分析（※詳細な誤答分析等を踏まえてできるだけ具体的に記載すること。）

		現状分析	今後の指導方針
技能別	全体	本校生徒の GTEC トータルスコア平均値は 656.8 であり、B1 レベル 1 名、A2 上レベル 11 名(4.7%)、A2 下レベル 75 名(32.1%)、A1 上レベル 140 名(59.8%)、A1 下 7 名となっており、A1 レベル以下が全体の 63% を占めている。中でもスコア 600~640 までの層が全体の 39.3%、560 以下が 23.5% と下位層が厚い。グレード 3	中学校までの基礎的な英語力の不足、特に語彙力不足を補いながら、落ち込みの幅の大きい Reading 力と Listening 力を伸ばす指導を強化する。
	Reading	1 年前期はまとまった分量の英文を読ませることをほとんどしていないため、読解の点での伸びが見られず、県平均と比較すると-9.9 (全国より-5.8) と落ち込みが大きい。中でもパート A の語彙語法分野は全国より-4.2 と基本的な語彙力不足がわかる。グレード 2	授業や授業外の活動で、初見で 200 語からのまとまった英文を読ませると同時に、語彙力強化を図る。
	Listening	県平均より-7.1(全国より-5.9)と Reading に次いで落ち込みが大きい。特に、A1 下が 44 名おり、全体の約 2 割が開けない生徒である。パート C・D での全国との開きがそれぞれ-2.6、-2.3 あり、まとまった分量を聞く問いの正答率が低い。グレード 2	授業内のリスニング活動のほかに、課外でもリスニング教材を毎時使用し、特にディクテーション活動でまとまった英文を聞き取れるようにする。
	Writing	県平均より+2.1(全国より+12.4)と唯一本校生の強みとなっている。B1 が 11 名、A2 上下合わせて 156 名おり、A2 以上が全体の 7 割を超える。グレード 4	書く活動は毎時取り入れており、今後も継続していく。次のステップへは単調な語彙や構文の使用を減らし、より論理的な構成で正確な文章を書く力をつけさせることが課題である。
	Speaking	県平均より-3.8(全国より-12.9)。長崎県は Speaking 力が低いことがわかる。B1 以上はおらず、A2 上レベルでもわずか 5 名しかいない。一番下の A1 上下レベルが 67.1% を占める。グレード 2	レッスン毎に行っているプレゼンテーション活動は今後も継続。人前で話すことに抵抗のある生徒が多いので場数を踏ませることと、即興性のあるスピーキング活動を取り入れる。

3 今後の授業等での取組

技能等	具体的な取組内容	期待される効果 (CAN-DO)
Reading	<ul style="list-style-type: none"> 音読活動 帯活動 内容理解の後、様々な音読活動(Listen and Repeat, Overlapping, Buzz Reading, Cloze Reading, Shadowing, Sight Translation 等)を行い英文の定着を図り、リテリングへとつなげる。 スキヤニング 速読 	まとまった英文を読んで概要をつかむことができる。 必要な情報をできるだけ早く読み取ることができる。 英語を、日本語を介さずに英語のかたまりで理解しようすることができる。
Listening	<ul style="list-style-type: none"> ディクトグロス活動 レッスン導入またはまとめで利用。要約文や関連する記事を用い、グループワークによるキーワード・内容の確認の後、ディクテーションへつなげる。 	リスニング・語彙・文法力の向上。
Writing	<ul style="list-style-type: none"> ライティングプロジェクト 仮想の団体や組織の運営を計画する。例えばボランティア団体や旅行代理店としての活動をその意義・活動内容・参加者募集方法などを具体的に計画・作成・発表する。 	CLIL 的発想を活用し、生徒の想像力を活用した学習ができる。活動過程・リサーチを通して実社会で使用されている英語に触れることができる。
Speaking	<ul style="list-style-type: none"> スモールトーク (1min.) ペアによる帯活動 レッスンに関連するテーマや既習の事項を用いて、即興で話す。聞き手はメモを取り、第 3 者に伝えるなどの活動へも発展させる。 リテリング活動 パートごとの帯活動 QA 活動の後やキーワードの聞き取りの後にレッスンの内容をまとめて伝える。 プレゼンテーション 全パート終了後のまとめとしてレッスン全体のリテリングを行うだけでなく、関連する情報を加えて発表したり、自分の意見を述べる。 	レッスン最初に行うことで英語を話す動機づけとなり、即興性を鍛えることができる。 発表者は内容を簡潔に伝えるために構成を考えながら既習の表現の活用ができる。聞き手はその内容を聞き取り、評価する中で、自らが発表する際に大切なところに気づくことができる。
その他 (語彙・文法等)	<ul style="list-style-type: none"> 英単語テスト・ボキャブラリーコンテンツの実施 既習の文法事項を用いたスモールトークの実施 	語彙の定着を図ることができる。 スピーキング活動を利用して文法の定着及び運用力をつけることができる。

【資料4】音読シート(表)

<Original> ☆☆☆☆☆

Due to natural disasters, / such as floods, typhoons, and earthquakes, / many people around the world / have lost their homes / and live in miserable conditions. // Today, let's learn about a Japanese man / who tackles this problem / by providing emergency shelters / for people in need. // 1 / According to some statistics, / in 2014 alone, / more than 19 million people in the world / were living in emergency shelters / because of natural disasters. // Unfortunately, / their living conditions were often terrible. // Some people were freezing, / and others were suffering from quickly spreading infectious diseases. // Also, it was almost impossible for them / to have privacy. // 2 / It is very difficult / to improve such conditions, / but many people are working hard / to solve the problems. // Shigeru Ban, a Japanese architect, / is one of them. // He has been building temporary houses / for people in need / since 1995, / while also designing fabulous buildings / for companies and museums. // Ban has become a world-famous architect, / because his work for victims / impressed many people. // 3 / Another thing that has made him famous / is the material he uses. // Surprisingly, / he mainly uses / cardboard-paper tubes. // They are lightweight, / making it possible / to build houses quickly. // And they are made of paper, / so you can get a lot of them / at a reasonable price. // Additionally, they are eco-friendly. // Being easily recycled, / they are less likely to affect the environment. // Water- and fire-proofed tubes / are strong enough / to be used for construction material. // Using those tubes, / Ban has been building paper houses / for people who need shelter. //

oons, and earthquakes, / many people around
) conditions. // Today, let's learn about a
ng emergency shelters / for people in need. //
re than 19 million people in the world / were
al disasters. // Unfortunately, / their living
, / and others were suffering from
(most impossible for them / to have privacy.//
, / but many people are working hard / to
se architect, / is one of them. // He has been
ce 1995, / while also designing ()
become a world-famous architect, / because
() he uses. // Surprisingly, / he
tweight, / making it possible / to build houses
get a lot of them / at a () price. //
recycled, / they are less likely to affect the
strong enough / to be used for ()
paper houses / for people who need shelter.//

【資料5】音読シート(裏)

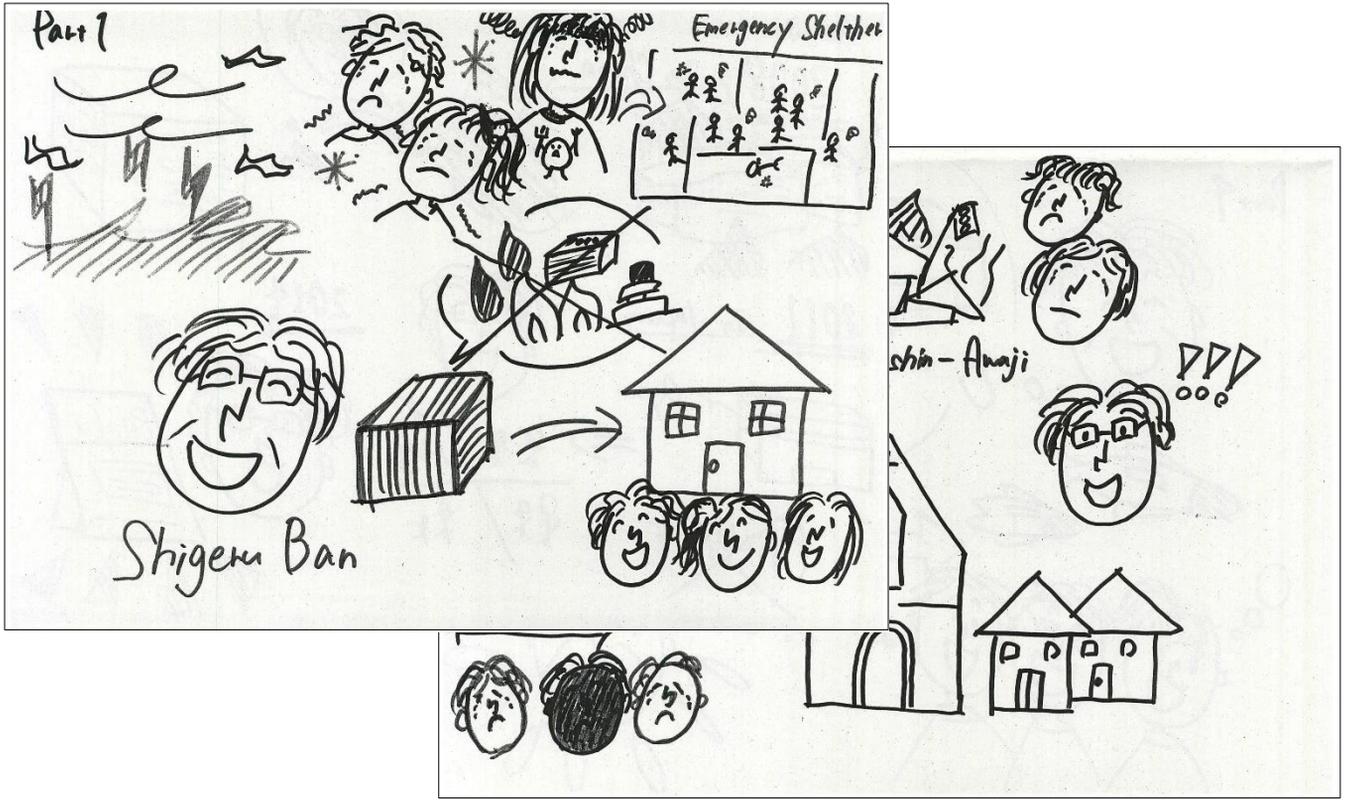
○ Sight Translation

Due to natural disasters,	自然災害によって
such as floods, typhoons, and earthquakes,	洪水や台風, 地震など
many people around the world	世界中の多くの人々
have lost their homes	家を失っています
and live in miserable conditions.	そして悲惨な環境で
Today, let's learn about a Japanese man	今日は日本人男性について
who tackles this problem	この問題に取り組む
by providing emergency shelters	緊急避難住居を提供
for people in need.	困窮している人々に
According to some statistics,	ある統計によると
in 2014 alone,	2014年だけで
more than 19 million people in the world	世界で1,900万人を
were living in emergency shelters	緊急避難住居での生活
because of natural disasters.	自然災害が理由で
Unfortunately,	残念なことに
their living conditions were often terrible.	彼らの生活環境はしばしば
Some people were freezing,	寒さに凍える人もいます
and others were suffering from quickly spreading infectious diseases.	また、急速に広まる感染症
Also, it was almost impossible for them	加えて、彼らにとって
to have privacy.	プライバシーを保つことが
It is very difficult	それは非常に難しい
to improve such conditions,	そのような状況を改善
but many people are working hard	しかし、多くの人々が
to solve the problems.	その問題を解決する

○ Quick Response

	E→J	English	line	Japanese	J→E
1	□□□	due		[形] (原因を) ~に帰すべきで due to ~のために	□□□
2	□□□	flood		[名] 洪水	□□□
3	□□□	miserable		[形] 悲惨な	□□□
4	□□□	tackle		[動] ~に取り組む	□□□
5	□□□	emergency		[名] 緊急	□□□
6	□□□	in need		困窮している、困っている	□□□
7	□□□	according to ~		~によると	□□□
8	□□□	statistics		[名] 統計 statistic 統計学	□□□
9	□□□	freeze		[動] 凍える	□□□
10	□□□	infectious		[形] 感染性の	□□□
11	□□□	solve		[動] ~を解決する	□□□
12	□□□	architect		[名] 建築家	□□□
13	□□□	temporary		[形] 一時的な	□□□
14	□□□	while		[接] (~する) 一方で	□□□
13	□□□	fabulous		[形] 素晴らしい	□□□
14	□□□	cardboard		[名] 段ボール	□□□
15	□□□	tube		[名] 管	□□□
16	□□□	reasonable		[形] 安価な、手ごろな	□□□
17	□□□	additionally		[副] さらに	□□□
18	□□□	proof		[動] ~を耐えるようにする cf. waterproof 防水の	□□□
19	□□□	construction		[名] 建設	□□□

【資料6】プレゼンテーションに用いるイラスト



【資料7】CAN-DOリスト

西陵高等学校英語科 Can-doリスト[H31(R1)]		生徒配布用			
技能		学習到達目標			
評価材料 時期	リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	
	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業中の活動(Q&A) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の活動(Q&A) インタビューテスト(ALTとの会話) プレゼンテーション(原稿・パワーポイントを利用した発表) 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業中の活動(板書や発表) 課題(ジャーナルや自由英作文など) 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業中の活動(板書や発表) 音読テスト(各レッスンごとに行う) 	
1年前期 A1	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を単語レベルで聞き取ることができる 基本的な言い回しを聞き取ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> やりとり 多くの支援を得れば、基本的な語句・表現を用いて身近な内容について相手とやりとりができる やりとりを2回以上行うことを目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> 発表 多くの支援を得れば、基本的な語句・表現を用いて身近な内容についてグループで発表することができる 30語以上話すことを目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な内容(自己紹介・趣味・経験など)について簡単な30語程度の英語で表現できる 	<ul style="list-style-type: none"> 単語の発音に注意しながら、教科書の指定された部分を暗唱することができる 身近な内容の本文の大意を把握することができる ○WPM70を目標とする
1年後期 A1	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を聞き取り、概要を理解し、メモをすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの支援を得れば、基本的な語句・表現を用いて社会問題について相手とやりとりができる やりとりを2回以上行うことを目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの支援を得れば、基本的な語句・表現を用いて社会問題についてグループで発表することができる 40語以上話すことを目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> 日本(長崎県)の伝統や文化について簡単な50語程度の英語で説明できる 	<ul style="list-style-type: none"> 発音だけでなく、抑揚などに注意しながら、意味を意識して、内容が伝わるように音読ができる 内容に関する簡単な英語の質問に英語で答えることができる ○WPM60を目標とする
2年前期 A2	<ul style="list-style-type: none"> 会話や物語の展開がある程度予測することができる 要点をおさえたメモがとれる 	<ul style="list-style-type: none"> ある程度の支援を得れば、既習の語句・表現を用いて身近な内容について相手とやりとりができる やりとりを3回以上行うことを目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> ある程度の支援を得れば、既習の語句・表現を用いて身近な内容についてペアで発表することができる 50語以上話すことを目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい内容について自分の考えを70語程度の英語で表現できる 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手を意識しながら、音読することができる 段落ごとの内容を把握し、見出しをつけることができる ○WPM90を目標とする
2年後期 A2	<ul style="list-style-type: none"> まとまった英文(150語程度)を集中して聞き取り理解することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ある程度の支援を得れば、既習の語句・表現を用いて社会問題について相手とやりとりができる やりとりを3回以上行うことを目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> ある程度の支援を得れば、既習の語句・表現を用いて社会問題について個人で発表することができる 60語以上話すことを目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい内容について自分の考えを構成し、気をつけながら、相手に分かるように100語程度の英語で表現できる 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を50~100語程度で日本語に要約できる 内容についての概要だけでなく、詳細についての英語の質問にも答えることができる ○WPM100を目標とする
3年前期 B1	<ul style="list-style-type: none"> 情報を整理しながら、様々な題材を聞き取ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 支援なしに、様々な語句・表現を用いて身近な内容について相手とやりとりができる やりとりを4回以上行うことを目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> 支援なしに、様々な語句・表現を用いて身近な内容について個人で発表することができる 70語以上話すことを目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> 社会問題を取り上げた話題について、自分の考えを100語から150語程度の英語で表現できる 	<ul style="list-style-type: none"> パラグラフ・フリーディングに必要な技術を習得することができる 構造的な理解(説明文)や比喩・たとえの理解(物語文)ができる ○WPM110を目標とする
3年後期 B1	<ul style="list-style-type: none"> 2分程度のまとまった英文を聞き取り、理解することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 支援なしに、様々な語句・表現を用いて社会問題について相手とやりとりができる やりとりを4回以上行うことを目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> 支援なしに、様々な語句・表現を用いて社会問題について個人で発表することができる 80語以上話すことを目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> 社会問題を取り上げた話題について、説得力のある論理的な文を150語から200語程度の英語で書くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を100語程度で要約できる 時事問題を扱った内容について、概要だけでなく、詳細についての英語の質問にもこたえることができる ○WPM120を目標とする

【資料8】「GTEC」のスコアの伸び

	Total	Reading	Listening	Writing	Speaking
スコアの伸び	109.0	36.1	29.6	22.8	20.2
伸び率	17%	27%	21%	11%	11%

【資料9】CEFRレベル別度数分布

